

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月28日

【評価実施概要】			
事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団 春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニックグループホーム		
所在地	旭川市春光台3条3丁目5番32号 (電 話) 0166-46-8806		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年7月27日	評価確定日	平成19年 8月 10日

【情報提供票より】(平成19年7月2日事業所記入)			
(1) 組織概要			
開設年月日	昭和・平成 16年4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 8人, 非常勤 13人, 常勤換算	10.9 人

(2) 建物概要			
建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	28,000円	その他の経費(月額)	20,000円 (暖房費10月～4月) 5,000円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 250 円
	夕食	550 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (7月2日現在)			
利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	3	要介護2	7
要介護3	4	要介護4	3
要介護5		要支援2	
年齢	平均 83.5 歳	最低 70 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関	
協力医療機関名	医療法人社団春光台クリニック、国立療養所道北病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】	
春光台クリニックグループホームは、自然環境に恵まれた住宅地に位置しており、広い敷地には、手入れの行き届いた菜園や花畑があり、利用者の毎日の楽しみとなっている。建物は平屋建てで、玄関を中心に2つのユニットが左右対称に位置するつくりで、ホーム内は見通しが良く明るく開放的で、居間の大きな窓からは四季折々の風景を見渡す事ができる。運営母体が医療機関なので、医療面での利用者及び家族の安心感強い。職員は管理者になんでも相談しながら毎日のケアサービスに取り組んでいる。利用者が非常に活動的で、生き生きとしていることがこのホームの特徴で、殆どの利用者は自分の役割として、日常の家事や植物の世話などを楽しんでいる。年2回開催される家族会に殆どの家族が参加し、ホームと意見交換を行っている。	

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価の実施には職員全員で取り組んでいるが、外部評価の結果に関して、改善に向けた具体案を検討し、実践につなげるまでには至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の実施には職員全員で取り組んだ。自己評価の結果を踏まえた反省や改善に向けての意識が職員間で高まっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、今年初めて第1回目が実施されたが、参加者メンバーに対するグループホームの説明と理解を求める内容が主であった。今後は、外部評価の結果も運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、参加者には、実践したときのモニターとしての役割をお願いするなどの取り組みを予定している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回、家族会を開催しており、殆どの家族が参加し、意見を交換し合っているほか、家族が訪問するときに気軽になんでも話し合える雰囲気作りを努めている。現在、玄関にアンケート用の意見箱を設置しているが、活用されていないので、家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会作りのために、家族会を利用したアンケートを予定している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、敬老会への参加や、廃品回収への協力なども行っており、お祭りなどの地域行事にも積極的に参加している。近隣の保育園児との交流やボランティアの受け入れなど地域との交流は盛んである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義は理解しているが、地域密着の現状にあった理念には作り変えてはいない。	○	今後は、管理者と職員全員で話し合い、地域密着型サービスとしての役割を目指した理念に作り変えることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の新規採用時に理念を伝え理解してもらっている。また、毎週のユニットごとのミニカンファレンス、毎月の全体カンファレンスで、具体的なケアと理念とのかかわりについて話しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、敬老会への参加や、廃品回収への協力なども行っており、お祭りなどの地域行事にも積極的に参加している。近隣の保育園児との交流やボランティアの受け入れなど地域との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施には職員全員で取り組んでいるが、外部評価の結果に関して、改善に向けた具体案を検討し、実践につなげるまでには至っていない。	○	自己評価と外部評価の結果を踏まえて反省や改善に向けて具体的に検討し、実践していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、今年1回目が実施されたが、参加者メンバーに、グループホームを説明し、理解を求める内容が主であった。	○	今回の外部評価の結果も運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、参加者には、実践したときのモニターとしての役割をお願いするなど、さらにサービスの向上に生かしていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市に対しては、必要のつど連絡をとっており、2ヶ月に1回は訪問するようにしているが、積極的に情報提供を行うなどの取り組みはない。	○	市の窓口を定期的に訪問して、半日程度で低料金の研修など有益な情報を提供してもらったり、グループホームの情報を提供したりするなど、市と相互連携を深め、協力してサービスの質の向上に取り組んでいくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の状況について話をし、必要のつど個別に電話で連絡している。毎月「ホーム便り」とお小遣い帳のコピーを郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族会を開催しており、殆どの家族が参加している。また、訪問のつど気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。玄関にアンケート用の意見箱を設置しているが、活用は殆どされていない。	○	家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会作りのために、家族会を利用してのアンケート実施を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設以来、職員の異動や離職が殆どない。今後、ユニット間の職員異動も検討しているので、利用者へのダメージについても考えていきたい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で、毎月勉強会が行われている。現在、勤務ローテーションや費用の関係もあって、常勤職員についての外部研修は実施されているが、非常勤職員については全員とまではいっていない。	○	市の窓口より、勤務ローテーションに無理がないような半日程度の研修の情報を入手し、非常勤職員全員に対しても外部研修の機会を確保していくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議には、近隣のグループホームのケアマネージャーに参加してもらっており、一部の職員には、ケアマネージャーの勤務しているグループホームを見学させてもらったり、また、ほぼ全員の職員が他のグループホームを見学させてもらっている。	○	現在、交流中のグループホームだけではなく、他のグループホームにも呼びかけて、お互いのホームを全ての職員が訪問し合えるような取り組みの継続を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、必ず本人と家族にホームを見学してもらっている。入居後は、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう配慮している。また、家族、友人、前サービス担当者にも来訪してもらうように積極的に声かけをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が共に生活するという意識を持ち、互いのコミュニケーションを図っている。漬物の漬け方、季節の行事、草花の育て方、食材の使い方など、利用者に教えてもらうことで職員も学ぶことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中で、会話や表情から一人ひとりの思いや意向について関心を寄せ、把握しようと努めている。センター方式シートはまだ採用していない。	○	利用者それぞれの視点に立ち、その思いを汲みとり、完全に把握するために、段階的にセンター方式シートの活用を検討していくことを期待したい。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族の意向、職員の話し合いに基づいて作成されている。カンファレンス等で職員から出されたアイデアを介護計画に取り入れ全職員で取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化がなければ通常は3ヶ月に1度見直しをしている。介護計画の期間以内であっても、本人や家族の要望、あるいは利用者の状態に変化があればその都度介護計画を変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物、美容院の送迎、利用者一人ひとりの希望外出先に同行するなど可能な限り対応している。協力医との連携により、医療との緊密な協調体制が取れるよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族が納得の上で、利用者全員が経営母体のクリニックの協力医をかかりつけ医としている。専門医が必要ときは紹介してもらっており、協力医と馴染みの関係ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関しては、カンファレンス等で何度も話し合いを持っており、家族の意向を聞きながら、全員で方針を共有するようにしているが、文書の記録をとり、家族等と確認し合うまでには至っていない。	○	今後は、重度化や終末期に伴う対応のあり方など重要用件については、同意書等を作成するなど書面に残していくことの検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類やファイルは事務室の書棚に保管するなど、記録等に関してのプライバシーの確保に留意しているが、利用者ひとり一人の誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けなどの配慮に関しては時には注意が足りない場面もある。	○	市の窓口で個人情報保護法などの資料を提供してもらい、プライバシーの確保についての勉強会をホーム内で開催し、日常的な確認と改善に向けた取り組みを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望でドライブや買物、理美容、畑仕事など臨機応変に対応している。終日ベッドで過ごしている利用者にもなんとか活動してもらおうと工夫はしているが無理じいはしていない。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表は作らず、利用者と一緒にその日の献立を考えている。職員と一緒に食事の準備や片付けをし、和やかに会話しながら食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望すれば毎日入れる状態にしている。入浴拒否の利用者に対しては、励ましながら最低でも週に2日は入浴するように支援している。利用者の希望の温度に合わせたり、希望を聞いて入浴剤も使用している。	○	入浴拒否の利用者に対して、気持ちよく入浴できるような取り組みをこれからも続けていくことを期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なこと、やれることを把握し、殆どの利用者が掃除や食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、新聞折り、畑仕事などそれぞれ役割を持って意欲的に活動しているが、終日ベッドで過ごす利用者もあり、少しずつでも役割を担ってもらうようにしている。	○	終日ベッドで過ごす利用者には、今以上に役割を広げて、少しずつ意欲を持ってもらうように、今後も努力していくことを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、散歩、ドライブ、外食など可能な限り利用者の希望に応じて外出している。夏場は外出の機会も多く、グループ分けをして全員行くようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。利用者が外出しそうな様子を察知したら、声かけし、さりげなく職員が同行したり、玄関と下駄箱に二重に音が鳴るような仕掛けをするなど安全面に配慮している。居間、食堂、台所は見通しが良く、人の出入りが良く分かるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、消防計画を作成し、「非常事態マニュアル」に基づき、年2回利用者と共に避難訓練を行っているが、近隣との協力体制は確立されていない。	○	町内会や運営推進会議で、出来るだけ早い段階で災害対策についての話をして、地域の方にも、災害時に協力してもらえる体制を取ることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日チェック表で一日の食事、水分量摂取量を記録し把握している。献立表はつくらず、利用者と一緒にマニュアルに基づいて、その日の献立を考えている。経営母体のクリニックの管理栄養士に、メニューを時々チェックしてもらっている。	○	栄養のバランス確保のために、保健所の栄養士や経営母体のクリニックの管理栄養士に、献立表を定期的にチェックしてもらうことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く、テーブルと椅子の他ゆったりとしたソファも置かれ、居心地よく過ごせるようになっている。天窓から自然採光もふんだんに取り入れられ、開放的な雰囲気である。広い中庭には花が綺麗に植えられ、リビングから見渡すことができる。季節感も充分味わえるつくりとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から家具や仏壇、ソファ、家族の写真を持ち込み居心地よく安心して暮らせるように工夫している。		

※ ☐ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。